外出支援に寄せる思い

～新たな表情を引き出すために～

社会福祉法人 白翁会
特別養護老人ホーム 喜久の園
介護部主任　織部 忠弘

特別養護老人ホーム　喜久の園

施設概要

平成１８年　７月１0日開設

令和　　３年　４月　１日増床

法人内特養と合併
市内最大規模の特養となる

特別養護老人ホーム　喜久の園

施設概要

特別養護老人ホーム
　入居　　定員120名
　短期入所生活介護　20床
併設事業
　居宅介護支援事業所
　地域交流センター「うらら」

建造物

鉄筋コンクリート３階建て

　敷地面積　　5,000.00㎡

　延床面積　　6,174.62㎡

特別養護老人ホーム　喜久の園

施設概要

ユニット型
14ユニット

入居者の状況（R5.7.6現在）

男性　　28名
女性　　90名
在席者　　118名

平均年齢　男性85.7歳
　　女性90.8歳
最高年齢　103歳
最少年齢　　54歳

要介護度状況

	介護１	介護２	介護３	介護４	介護５	合　計
合　計	3名	1名	45名	42名	27名	118名
割　合	2.5%	0.8%	38.1%	35.6%	22.9%	100%

平均要介護度	3.8

共同生活室(リビング・ダイニング)

居　室

喜久の園　基本理念

敬　愛

スローガン

「私たちは、ご利用者を敬い、親しみの気持ちを持って支援します。」

『温もり溢れる家庭に居るような暮らしの提供』（入居）

利用者の尊厳を保持し、施設に入居しても住み慣れた地域や家で暮らしていた時のように、家庭的で自律的な暮らしが継続できる施設づくりを目指す。

『だれもが安心して暮らせるように人と地域を支える』（居宅系・地域）

「外出支援」をテーマにした理由

- 私にとって外出支援は、介護の仕事をする上で、常に大事にしていた支援である。
- コロナ禍になり改めて外に出る事の必要性を感じた。

満足な外出ができなくなり…

・入居者様・職員のストレス増大

・入居者様のADL・生活の質・意欲の低下

など様々な弊害が生じたのではないか

外出支援の役割、必要性について

- 入居者様の楽しみ、気分転換
- 季節を目、肌で感じることができる
- 社会、地域とのつながりがもてる
- 職員が入居者様と密な関わりができる
- 入居者様の新たな一面を知る事ができる
- 入居者様同士の交流
- 睡眠、食欲向上の期待

そのような効果を得られる事で・・・

- 入居者様のQOL向上、個別ケアへの発展
- 生き生きとした生活につながる期待

取り組んだ課題

- 外出する事で入居者様に非日常的な楽しみ、気分転換、季節、**社会や地域とのつながり**を感じてもらい、**新たな一面や表情を引き出す**。

- 職員（新任職員3名）に外出支援（静岡空港、紫陽花見学）を通し、**介護の魅力とやりがい**を感じてもらう。

外出支援に取り組むために必要な事

リスクマネジメント

- 外出先での怪我、体調不良
- 交通事故、車両の不具合
- 入居者間のトラブル
- 天気の急変

外出には様々なリスクやトラブルも伴う

- 計画　（日時、場所、持ち物、緊急時の対応等）
- 他部署との連携
- 入居者様の体調、気分の確認
- 車両、外出先の安全確認
- 当日の職員の人員配置
- 家族の協力（同行、金銭面）

楽しく、安全に行くためには準備が大事！

外出時の様子

静岡空港・紫陽花鑑賞

今年度学卒採用した3人の職員

（右上は7年前の新人さん、
今やユニットリーダーで活躍中）

外出時の様子

外出は入居者様を自然と豊かな表情にしてくれます

活動の成果
※同行した新任職員の感想から

- 茶畑など施設から見えるものと異なる景色を観ることができ、普段表情の少ない方の笑顔を沢山見ることができた。
- これまでと違った角度で質問ができ、フェイスシートや日常の会話では知りえない過去の情報、生活歴を知ることができた。
- 入居者様との良好な関係を築くために、より多くの入居者様に外出支援を行った方が良いと思った。
- 自分から「あれ見たい」「これ見たい」と色々なことに興味を持ってくれた。

活動の成果　※同行した新任職員の感想から

- 普段静かな方が沢山お話してくれた。
- もちろん入居者様がメインだが職員も気分転換になった。
- 外出先で車椅子の介助をしたことで、施設のバリアフリーやユニバーサルデザインに気づくことができた。
- 地域でも高齢者や障がい者が過ごしやすいハード面の配慮が必要だと実感した。
- 入居者様の地元について知ることができた。
- 出発前から不穏で外出時「追い出された」と感じていた入居者様がいた。

最近不穏な入居者様が
外出時に話された言葉

新人「大丈夫かなぁ…」

「追い出されたと思ったよ！」

この言葉に思うこと

普段と異なることをするときには、事前に入居者様にしっかりと説明をしなければならない。

認知症の方は忘れてしまう場合が多いので、説明をしたつもりでも、当日の直前に覚えているとは限らない。

入居者様の立場に立って何度でも必要に応じ、丁寧な説明をする必要があることを、特に新任職員には教えておくべきであった。

活動評価

- 身体ケアとは異なった精神的なケアの大切さを知る機会になった。
- 空港や公園にいくことで社会、地域とつながる機会を持てた。
- 入居者様が「今度は〇〇へ行きたい。」と言われ、生活の意欲につながった。
- 外出支援によってポジティブな事だけでなくネガティブな面を感じたことは、入居者様をより知ることや、関係の再構築、今後の支援方法にも有効であると感じた。
- 制限の多い環境下で働く新任職員に、外出を通し介護のやりがいや楽しみを感じてもらいたいという目的が達成できた。

※長く介護の仕事を続けてもらうために大事なこと

今後の課題、目標

外出支援に限らず施設に入居したら家にいた時にしていたことが何もできなくなるのではなく、

入居しても継続できた！

入居したからこそ出来た！
取り戻せた！

ということを支援をしたい。

入居者様にとって、

ここ（喜久の園）は自分らしく暮らせる場所だ！

楽しみが増えた！

と思ってもらえるよう、居心地のよい空間や地域と繋がれる機会を提供したい。

そのために

外出支援を取り組みの1つとして

研修等を通じて施設全体で外出支援の必要性及び地域との結びつきの重要性を知ってもらう。

多職種連携や安全確保・人員配置など

施設一丸となり外出が入居者にとって生活の一部となれるよう継続して外出支援を行っていく。

今までの外出先での入居者様の様子

ピクニック

外出先では会話も弾み、
食欲も増進されるようです

釣りが趣味だった
Aさんと御前崎海岸へ

とびっきりの笑顔を見せてくれた思い出に残る外出支援

ひまわり・コスモス畑

草花に触れて入居者様は「にっこり、ほっこり」

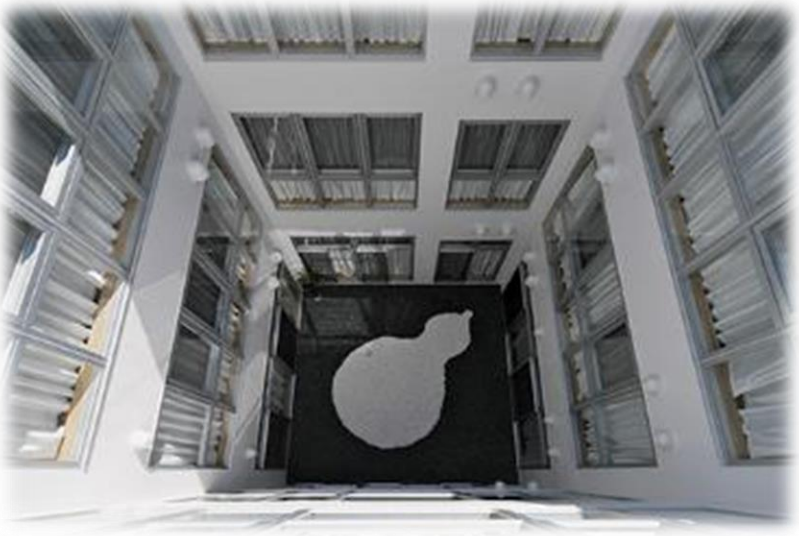
お花見

お誕生日にマクドナルドでドライブスルー
※コロナ禍

誕生日と感染対策を考慮した外出支援

ハンバーガーを食べたいと言ったＢさん
ドライブスルーで好きな物を購入し、
施設に戻ってお祝いランチ！

ご清聴ありがとうございました



長寿・健康・円満を祈念した光庭（中庭）のひょうたん